

科目名: <b>国語 4a</b>			
英文名: Japanese 4a			
担当者: 大内 清司		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: ディスカッション	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> 第 1 週 基本編第1回 第 2 週 基本編第2回 第 3 週 基本編第3回、漢字小テストを実施 第 4 週 基本編第4回 第 5 週 基本編第5回 第 6 週 基本編第6回、漢字小テストを実施 第 7 週 表現編 作文演習 学生生活で得たもの 第 8 週 「第1週から 7 週までの総復習」 第 9 週 基本編第7回 第10週 基本編第8回、漢字小テストを実施 第11週 基本編第9回 第12週 基本編第10回、漢字小テストを実施 第13週 表現編 作文演習 セールスポイント 第14週 「第 9 週から 14 週までの総復習」 <p>[予習内容]: 次回の教材について問題を解き、分からない箇所を調べておく。次回に漢字小テストが予定されている場合はそれに備えた学習をする。また次回に作文演習が予定されている場合は、大まかな草案を書き留めておく(60 分)</p> <p>[復習内容]: 授業内容を復習しノート整理をする。作文演習を行った場合は、自分の原稿を完成させる(30 分)</p> <p>定期試験直前には、作文事例を皆で検討し合い、グループディスカッションをする。試験後はその解答例をフィードバックし、再度ディスカッションをする。 (試験時間各 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等  国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>■使用言語  日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標  受講生はこの授業を受講することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (D-G1)(E-G1)四字熟語や故事成語、ことわざ言葉について知識を深める(漢検2級相当)。</li> <li>2. (D-G1)(E-G1)論理的に考え、説得力を持って意見を提示することが出来る書き方を理解する。</li> <li>3. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定 2 級程度の常用漢字の読み書き能力を持つ。</li> </ol> <p>ことができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー D、E の達成に關与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法  定期試験の後に、出題問題について一緒に考え復習をすることでフィードバックを行なう。漢字小テストの場合も間違いの傾向を整理して提示する。</p> <p>■教科書  『パスポート国語必携』桐原書店</p> <p>■参考文献  『常用漢字クリア』尚文出版</p> <p>■関連科目  特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)・小テスト・課題、方式: 記述式  定期考査成績: 定期試験(60%)、漢字小テスト(40%)として評価します。ただしノートの提出が無い場合は-20%。再試験は各定期考査後に 1 回、記述式で実施します(理解度に応じ課題提出を課します)。再試験は、試験 60 点以上を合格とします。  定期試験は中間・期末の 2 回。  最終成績: 定期考査成績の平均点とします。  90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)  漢字学習、教科書の課題集を使用した予習・復習  漢字小テストの実施や教科書の学習課題集を使用した学習項目のまとめを授業で行い、予習復習の確認をする。  10 月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 大内: 図書館1階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法  10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス  oouchi@ktc.ac.jp,</p> <p>■オフィスアワー  月曜日(12:15～13:00)</p>	

科目名: <b>国語 4b</b>			
英文名: Japanese 4b			
担当者: 大内 清司		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: ディスカッション	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 基本編第 11 回 第 2 週 基本編第 12 回 第 3 週 基本編第 13 回、漢字小テストを実施 第 4 週 基本編第 14 回 第 5 週 発展編第 1 回 第 6 週 発展編第 2 回、漢字小テストを実施 第 7 週 表現編 作文演習 志望動機 第 8 週 「第 1 週から 7 週までの総復習」 第 9 週 発展編第 3 回 第 10 週 発展編第 4 回、漢字小テストを実施 第 11 週 発展編第 5 回 第 12 週 発展編第 6 回、漢字小テストを実施 第 13 週 表現編 作文演習 理想の技術者像 第 14 週 「第 9 週から 14 週までの総復習」</p> <p>[予習内容]: 次回の教材について問題を解き、分からない箇所を調べておく。次回に漢字小テストが予定されている場合はそれに備えた学習をする。また次回に作文演習が予定されている場合は、大まかな草案を書き留めておく(60 分)</p> <p>[復習内容]: 授業内容を復習しノート整理をする。作文演習を行った場合は、自分の原稿を完成させる(30 分)</p> <p>定期試験直前には、作文事例を皆で検討し合い、グループディスカッションをする。試験後はその解答例をフィードバックし、再度ディスカッションをする。 (試験時間各 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講生はこの授業を受講することによって。 1. (D-G1)(E-G1)四字熟語や故事成語、ことわざ言葉について知識を深める(漢検 2 級相当)。 2. (D-G1)(E-G1)論理的に考え、説得力を持って意見を提示することが出来る書き方を理解する。 3. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定 2 級程度の常用漢字の読み書き能力を持つ。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー D、E の達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験の後に、出題問題について一緒に考え復習をすることでフィードバックを行なう。漢字小テストの場合も間違いの傾向を整理して提示する。</p> <p>■教科書 『パスポート国語必携』桐原書店</p> <p>■参考文献 『常用漢字クリア』尚文出版</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)・小テスト・課題、 方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験(60%)、漢字小テスト(40%)として評価します。ただしノートの提出が無い場合は-20%。再試験は各定期考査後に 1 回、記述式で実施します(理解度に応じ課題提出を課します)。再試験は、試験 60 点以上を合格とします。 定期試験は中間・期末の 2 回。 最終成績: 定期考査成績の平均点とします。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上~90 点未満「優」GP「3」、70 点以上~80 点未満「良」GP「2」、60 点以上~70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 漢字学習、教科書の課題集を使用した予習・復習 漢字小テストの実施や教科書の学習課題集を使用した学習項目のまとめを授業で行い、予習復習の確認をする。 10 月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 大内: 図書館 1 階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス oouchi@ktc.ac.jp, ■オフィスアワー 月曜日(12:15~13:00)</p>	

科目名: <b>英語 4a</b>			
英文名: English 4a			
担当者: 奈須 健 高畑時子 花巻昌子 福岡玲子		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 担当者によって異なる。		アクティブ・ラーニングの形態: ディスカッション ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当有	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 1.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
「授業タイトル」		■授業概要・方法等	
第 1 週	Unit 1 College Life I: Welcome to College [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	英語 1~3 で学んだ英語コミュニケーション能力の基礎を発展させる活動を行います。教科書に沿った授業展開をし、日々の課題や提出物、小テストなどをこなしながら、英語を読む、書く、聞く、話す訓練を総合的に行います。さらに情報や考えを的確に理解し伝える能力を養います。授業は週 3 時間あり、習熟度に応じ、全学年が 4 クラスに分かれます。	
第 2 週	Unit 2 College Life II: Course Registration [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■使用言語 日本語・英語	
第 3 週	Unit 3 Hobbies: Do It Yourself [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、	
第 4 週	Unit 4 Romance: The Guardian of Love [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	1. (E-G2)(E-2) 英語の概略を聞き取る。 2. (E-G2)(E-2) 英語の基礎を理解した上で、英語を英語のまま理解し、なるべく沢山の英語に触れる。 3. (E-G2)(E-2) 英語圏の生活や文化について理解を深める。	
第 5 週	Unit 5 Transportation: Low-Cost Carriers [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。	
第 6 週	Unit 6 Business: An Indian Restaurateur [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行います。課題は基本的に提出した次の授業時に回収して、添削・採点の上、間違いが多い点や重要な点などを解説します。	
第 7 週	Unit 7 Society: Global Self-Help Revolution [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■教科書 Power-up English, Pre-Intermediate (南雲堂) (ISBN 978-4-523-17772-2 C0082)	
第 8 週	第 1 週~第 7 週までに学んだことを総復習。中間試験。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■参考文献 紙 or 電子辞書で、自分の使いやすい辞書を一冊用意し、普段から分からない単語を調べることを習慣にする。	
第 9 週	答案返却・解答。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■関連科目 英語演習 4、TOEIC プラス、他に、外国文献講読、英語特講	
第10週	Unit 8 Health: Achilles Tendon Rupture [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 共通テスト 80%、小テスト 10%、課題 10%で評価します。 最終成績は、2 回の定期考査成績の平均点とします。 90 点以上「秀」、80 点以上~90 点未満「優」、70 点以上~80 点未満「良」、60 点以上~70 点未満「可」、60 点未満「不可」 再試験は、試験 60 点以上を合格とします。 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上~90 点未満「優」、70 点以上~80 点未満「良」、60 点以上~70 点未満「可」、60 点未満「不可」	
第11週	Unit 9 The Environment: Aluminum-can Recycling [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。	
第12週	Unit 10 Medicine: Alternative Medicine [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■教員所在場所 奈須: 本館 1F 保健管理センター、高畑: 図書館 1F 国際交流部、 花巻・福岡: 2 号館 2F 共通教育科教員室	
第13週	Unit 11 Finance: Two Big Players [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■授業評価アンケート実施方法 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。	
第14週	Unit 12 Shopping: Smart Shopping [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■メールアドレス 奈須: <a href="mailto:nasu@kctc.ac.jp">nasu@kctc.ac.jp</a> 、高畑: <a href="mailto:takahata@kctc.ac.jp">takahata@kctc.ac.jp</a> 、 花巻: <a href="mailto:hanamaki@kctc.ac.jp">hanamaki@kctc.ac.jp</a> 、福岡: <a href="mailto:fukuoka@kctc.ac.jp">fukuoka@kctc.ac.jp</a>	
第15週	第 8 週~第 14 週までに学んだことについて総復習。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。	■オフィスアワー 授業中に、各クラスにて指示します。	
定期試験 第 8 週~第 15 週までの内容について筆記試験を行う。 (試験時間 50 分)			

<b>科目名：英語 4b</b> <b>英文名：English 4b</b>			
<b>担当者：奈須 健 高畑時子 花巻昌子 福岡玲子</b>		<b>開講年度：2022 年度(令和 4 年度)</b>	
<b>実務経験の内容：担当者によって異なる。</b>		<b>アクティブ・ラーニングの形態：ディスカッション</b> <b>ICT を活用したアクティブ・ラーニング：該当有</b>	
<b>工学科：総合システム</b>	<b>学年：4</b>	<b>開講期：後期</b>	<b>コース：全</b>
<b>科目種別：必修</b>	<b>単位数：1.5</b>	<b>授業形態：講義</b>	<b>単位の種別：履修</b>
<b>授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)</b>		<b>授 業 概 要</b>	
「授業タイトル」 第 1 週 Unit 13 Careers: Job Hunting [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 2 週 Unit 14 Art: The Shadow of a Great Artist [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 3 週 Unit 15 Culture: Everyday Japan and "Matsuri" Japan [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 4 週 Unit 16 Population: The Declining Birthrate [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 5 週 Unit 17 Disasters: Narrow Escape [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 6 週 Unit 18 Travel: Invitation to Hokkaido [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 7 週 Unit 19 Sports: The World's Most Popular Sport? [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 8 週 第 1 週～第 7 週までに学んだことを総復習。中間試験。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第 9 週 答案返却・解答。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第10週 Unit 20 Life: Quality of Life [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第11週 Unit 21 Entertainment: Television Prime Time [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第12週 Unit 22 Language: Loanwords in Japanese [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第13週 Unit 23 Science: The Goal of Science [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第14週 Unit 24 Technology: A Language Robot [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 第15週 第 8 週～第 14 週までに学んだことについて総復習。 [予習内容]: (30 分): 単語を調べ、要点を把握・予測する。 [復習内容]: (30 分): 教科書やノートを再読し、理解を深める。 定期試験 第 8 週～第 15 週までの内容について筆記試験を行う。 (試験時間 50 分)		<b>■授業概要・方法等</b> 英語 1～3 で学んだ英語コミュニケーション能力の基礎を発展させる活動を行います。教科書に沿った授業展開をし、日々の課題や提出物、小テストなどをこなしながら、英語を読む、書く、聞く、話す訓練を総合的に行います。さらに情報や考えを的確に理解し伝える能力を養います。授業は週 3 時間あり、習熟度に応じ、全学年が 4 クラスに分かれます。 <b>■使用言語</b> 日本語・英語 <b>■学習・教育目標および到達目標</b> 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)(E-2) 英語の概略を聞き取る。 2. (E-G2)(E-2) 英語の基礎を理解した上で、英語を英語のまま理解し、なるべく沢山の英語に触れる。 3. (E-G2)(E-2) 英語圏の生活や文化について理解を深める。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシー B の達成に関与しています。 <b>■試験・課題に対するフィードバック方法</b> 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行います。課題は基本的に提出した次の授業時に回収して、添削・採点の上、間違いが多い点や重要な点などを解説します。 <b>■教科書</b> Power-up English, Pre-Intermediate (南雲堂) (ISBN 978-4-523-17772-2 C0082) <b>■参考文献</b> 紙 or 電子辞書で、自分の使いやすい辞書を一冊用意し、普段から分からない単語を調べることを習慣にする。 <b>■関連科目</b> 英語演習 4、TOEIC プラス。他に、外国文献講読、英語特講 <b>■成績評価方法および基準</b> 種類: 定期試験 (2 回)、方式: 記述式 共通テスト 80%、小テスト 10%、課題 10% で評価します。 最終成績は、2 回の定期考査成績の平均点とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」 再試験は、試験 60 点以上を合格とします。 最終成績: 定期考査成績の平均とする。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」 <b>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)</b> 左記に記載した予習・復習に取り組むこと。 <b>■教員所在場所</b> 奈須: 本館 1F 保健管理センター、高畑: 図書館 1F 国際交流部、花巻・福岡: 2 号館 2F 共通教育科教員室 <b>■授業評価アンケート実施方法</b> 10 月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。 <b>■メールアドレス</b> 奈須: <a href="mailto:nasu@kctc.ac.jp">nasu@kctc.ac.jp</a> 、高畑: <a href="mailto:takahata@kctc.ac.jp">takahata@kctc.ac.jp</a> 、 花巻: <a href="mailto:hanamaki@kctc.ac.jp">hanamaki@kctc.ac.jp</a> 、福岡: <a href="mailto:fukuoka@kctc.ac.jp">fukuoka@kctc.ac.jp</a> <b>■オフィスアワー</b> 授業中に、各クラスにて指示します。	

科目名: <b>経済学 a</b>			
英文名: Economics a			
担当者: 西 孝		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 地方銀行およびシンクタンクで、支店の経営、経済・産業調査を主に担当		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: googleclassroom を用いた on demand リモート授業	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 2	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第1週 ガイダンス、経済学とは何か [予習内容]: 不要 [復習内容]: 経済学の定義 (テキストを読み覚える[以下同じ。]) (10 分)</p> <p>第2週 市場メカニズムのしくみ、経済主体、財・サービス [予習内容]: 経済主体、財・サービスについて-[テキストを読み予習メモを作成する(以下、同じ)] (30 分) [復習内容]: 消費者と生産者の関係 (20 分)</p> <p>第3週 需要と需要曲線、供給と供給曲線 [予習内容]: 需要曲線、供給曲線について (30分) [復習内容] 需要と供給に価格形成について (30分)</p> <p>第4週 均衡価格と均衡取引量、消費者余剰と生産者余剰 [予習内容]: 均衡価格、均衡取引量について (30分) [復習内容]: 消費者余剰、生産者余剰、総余剰について (30分)</p> <p>第5週 企業の構造 1 [予習内容]: 企業の形態、資金の調達について (30分) [復習内容]: 企業の目的 (20 分)</p> <p>第6週 企業の構造 2 [予習内容] 企業の目的について (30分) [復習内容] 利潤最大化について (20分)</p> <p>第7週 市場の失敗と不完全競争 [予習内容]: 完全競争市場と不完全競争市場の違い (30 分) [復習内容]: 不貿易競争市場の発生要因 (20 分)</p> <p>第8週 中間試験、答案開示</p> <p>第9週 貿易の構造としくみ 1 [予習内容]: 保護主義とは (20分) [復習内容]: リカードの「比較優位」について (30分)</p> <p>第10週 貿易の構造としくみ 2 [予習内容]: ヘクシャー・オリンモデルについて (30分) [復習内容]: 自由貿易の利益について (30分)</p> <p>第11週 インフレーションおよび為替相場について [予習内容]: インフレーションの定義、為替とは (30分) [復習内容]: ハイパーインフレ、円高の効果 (20分)</p> <p>第12週 グローバル化が進む経済1 [予習内容]: 戦後の日本経済の復興 (30分) [復習内容]: 戦後の復興経済政策 (20分)</p> <p>第13週 グローバル化が進む経済2 [予習内容]: 経済3大改革について (30分) [復習内容]: 3大改革の影響 (20分)</p> <p>第14週 グローバル化が進む経済 3 [予習内容]: 朝鮮戦争と日本について (30分) [復習内容]: 朝鮮戦争と高度経済成長 (30分)</p> <p>第15週 グローバル化が進む経済 4(プラザ合意以降の円高)、理解度確認テスト、解説、振り返り [予習内容]: これまでの復習 [復習内容]: 自由</p> <p>中間・期末試験 講義内容に関する筆記試験 (50分) をおこないます。 模範解答は教室、および google classroom に掲示します。</p>		<p>■授業概要・方法等 経済学を初めて学ぶ学生が経済学に興味、基礎的な概念を理解できるように、基本的な点に重点を置き、講義します。ミクロ経済の基本的な仕組みについて、身近な事例を用いながら学習していく。主として google classroom 上での講義形式で行う。上記内容について、逐次、実務経験でえた知識に基づいて解説します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済用語の基礎知識を修得し、ミクロ経済の動きについての基本的仕組みを理解し、説明する</li> <li>2. 身近な事例を通してミクロ経済についての関心と理解を深め、分析することができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校のディプロマポリシーD の達成に寄与するものです。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験終了後に模範解答を掲示し、答案は学生に個別に開示します。</p> <p>■教科書 高橋知也・鈴木久美『超入門経済学』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07206-4 (「経済学 b」と同じ)</p> <p>■参考文献 適宜紹介します。</p> <p>■関連科目 経済学b</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 筆記試験 (中間、期末) 定期考査成績: 筆記試験 (100%) で評価。 最終成績: 中間・期末の定期考査成績の平均点。 ・授業への参加意欲が低く改善が見られない場合および課題の提出物を出さない場合は、減点の対象とします (最大 20 点)。 ・成績評価の対象外だが、1 回～2 回理解度確認テストをおこないます。 「90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」 ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習 (予習・復習等) 経済動向に関する新聞記事などに目を通すよう心がけてほしい。講義中にノートを取り、それに基づき復習し知識定着化をはかることを期待します。 「予習メモ」を配布し、それに授業までに該当する内容の予習成果を記入し提出してもらいます。 復習の成果は、指定期限までに google classroom 上で「課題」に回答してもらうことで確認します。</p> <p>■教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室 ■授業評価アンケート実施方法 10月に実施します。 学修経験を問うアンケート調査も実施します。 ■メールアドレス tnishi@kct.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00、13:50～14:30</p>	

科目名: <b>経済学 b</b>			
英文名: Economics b			
担当者: 西 孝		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 地方銀行およびシンクタンクで、支店の経営、経済・産業調査を主に担当		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: googleclassroom を用いた on demand リモート授業	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 2	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 GDP から考える景気と経済成長 [予習内容] 付加価値についてテキストを読む(30分) [復習内容] GDP の概念についてテキストを読み覚える(20分)</p> <p>第2週 名目GDPと実質GDP、経済成長率 [予習内容] GDP 計算に含まれるもの、含まれないもの(20分) [復習内容] 経済成長率の算出方法(20分)</p> <p>第3週 財政 [予習内容] 財政の定義(20分) [復習内容] 財政の3機能について(20分)</p> <p>第4週 日本の財政と税制 [予習内容] 日本の財政の実態(30分) [復習内容] 財政赤字の問題点(20分)</p> <p>第5週 世代間の不公平と負担の転嫁 [予習内容] 「公債発行の中立命題」について(30分) [復習内容] 公債発行と増税について(30分)</p> <p>第6週 貨幣と金融の機能、理解度確認テストと解説 [予習内容] 貨幣について(20分) [復習内容] 貨幣の3大機能について(20分)</p> <p>第7週 金融(銀行の機能、中央銀行等) [予習内容] 直接金融と間接金融について(30分) [復習内容] 金融の機能について(20分)</p> <p>第8週 中間試験、模範解答解説、答案個別開示 [予習内容] 不要 [復習内容] 不要</p> <p>第9週 労働市場 [予習内容] 日本の労働力の状況について(30分) [復習内容] 失業および求人倍率の定義について(20分)</p> <p>第10週 労働供給と労働時間 [予習内容] 労働の供給と供給の特性について(30分) [復習内容] 所得効果と代替効果について(30分)</p> <p>第11週 労働需要 [予習内容] 企業の雇用に対する考え方(30分) [復習内容] 利潤最大化条件について(20分)</p> <p>第12週 労働組合 [予習内容] 労働3法について(30分) [復習内容] 労働組合の役割</p> <p>第13週 新しい経済学 ゲーム理論1 [予習内容] ゲーム理論の基本的考え方(30分) [復習内容] 非協力ゲーム(囚人のジレンマほか)について(30分)</p> <p>第14週 新しい経済学 ゲーム理論2 [予習内容] インセンティブについて(30分) [復習内容] コミットメントについて(30分)</p> <p>第15週 振り返り [予習内容] 不要 [復習内容] 中間試験以降の講義内容の復習</p> <p>期末試験 講義内容に関する筆記試験(50分)をおこないます。模範解答は教室と google classroom に掲示。</p>		<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>はじめて経済学を学ぶ学生が経済学に親しみ、基礎的な概念について理解できるよう、基本的な点に重点を置いて講義します。マクロ経済について、経済の規模、経済成長、貨幣、金融、労働市場を中心に講義するほか、ゲーム理論などの比較的新しい経済学にも触れる。主として講義形式でおこなう。</p> <p>実務経験から得られた知識、視点に基づいて、経済事象について経済学の理論に照らし合わせて解説します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することにより、 1.マクロ経済用語の基礎知識を修得し、マクロ経済の動きについての基本的仕組みを理解し、説明できる 2.身近な事例を通してマクロ経済についてと理解を深め、説明することができるようになります。</p> <p>この科目の履修は、本校のディプロマポリシーD の達成に寄与するものです。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 授業中に実施する理解度確認テストについては、解説をおこないません。定期試験は定期試験後に解説し、模範解答を教室に掲示します。答案は学生に個別に開示します。</p> <p>■ 教科書 高橋知也・鈴木久美『超入門経済学』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07206-4 (「経済学 a」と同じものを使用)</p> <p>■ 参考文献 随時示します。</p> <p>■ 関連科目 経済学 a</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 筆記試験(中間・期末の 2 回) 定期考査成績: 筆記試験(100%)で評価する。 最終成績: 2 回の定期考査成績の平均とする。授業への参加意欲が低く改善が見られない場合、及び課題を提出しない場合は、減点の対象とします(最大 20 点)。 ・成績評価の対象外だが、1 回～2 回理解度確認テストをおこないます。 90 点以上「秀」「GP 4」、80 点以上「優」「GP 3」、70 点以上 80 点未満「良」「GP 2」、60 点以上 70 点未満「可」「GP 1」、60 点未満「不可」「GP 0」 ただし、再試験に合格し 60 点以上あると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 経済動向に関する新聞記事などに目を通すよう心がけてほしい。「予習メモ」を配布するので、授業までに該当する内容の予習成果を記入し提出してもらいます。 復習の成果は、指定期限までに google classroom 上で「課題」に回答してもらうことで確認します。</p> <p>2 月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■ 教員所在場所 2号館2階 共通教育教員室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 2 月に実施します。</p> <p>■ メールアドレス tnishi@kct.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00、13:50～14:30</p>	

科目名: <b>保健体育4a</b>			
英文名: Health and Physical Education4a			
担当者: 池田龍佐人 塚本祐也		開講年度: 2022年度(令和4年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 必修	単位数: 0.5	授業形態: 実技	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「シラバス・授業説明」 [予習内容]: [復習内容]:シラバスについての内容理解</p> <p>第2週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:バドミントンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第3週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:バドミントンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第4週 「球技・基礎体力の向上(球技)」 [予習内容]:バドミントンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第5週 「球技・基礎体力の向上(球技)」 [予習内容]:ソフトボールの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第6週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:ソフトボールの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第7週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:ソフトボールの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第8週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:バレーボールの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第9週 「球技・基本技術の向上(球技)」 [予習内容]:サッカーの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第10週 「球技・基礎体力の向上」 [予習内容]:卓球の内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第11週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第12週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第13週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第14週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>第15週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習</p> <p>定期試験</p>		<p>■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理する為の基本知識を養う事を目標とします。各競技ごとに班分けを行い作戦・役割分担を決めて競技を行う。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することにより、 1. (D-G2)(D-2) 集団行動を通じて協調性を養う。 2. (D-G2)(D-2) 多種多様なスポーツの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚えることができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーDの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後の講義で答案用紙を返却し、解答を解説します。</p> <p>■教科書 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」大修館</p> <p>■参考文献 特にありません。</p> <p>■関連科目 保健・健康科学</p> <p>■成績評価方法および基準 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方から評価する。競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)と定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90点以上「秀」GP「4」、80点以上～90点未満「優」GP「3」、70点以上～80点未満「良」GP「2」、60点以上～70点未満「可」GP「1」、60点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し60点以上あると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 10月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 体育館体育教官室(辻本)、2号館共通教養室(栗田)</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月にWebにてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス r-ikedata@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 水・金曜日(11:00～12:00)</p>	

<b>科目名： 保健体育4b</b> <b>英文名： Health and Physical Education 4b</b>			
<b>担当者： 池田龍佐人 塚本祐也</b>		<b>開講年度： 2022 年度(令和 4 年度)</b>	
<b>実務経験の内容:該当なし</b>		<b>アクティブ・ラーニングの形態： 該当なし</b> <b>ICT を活用したアクティブ・ラーニング： 該当なし</b>	
<b>工学科： 総合システム</b>	<b>学年： 4</b>	<b>開講期： 後期</b>	<b>コース： 全</b>
<b>科目種別： 必修</b>	<b>単位数： 0.5</b>	<b>授業形態： 実技</b>	<b>単位の種別： 履修</b>
<b>授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)</b>		<b>授 業 概 要</b>	
「授業タイトル」 第 1週 「答案返却・解答」 [予習内容]:試験の内容理解 [復習内容]:試験の復習 第 2週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]:サッカーの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 3週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]:バレーボールの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 4週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]:バドミントンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 5週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]:マラソンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 6週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]:マラソンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 7週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]:マラソンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 8週 「陸上競技・マラソン」 [予習内容]:マラソンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第 9週 「陸上競技・マラソン計測」 [予習内容]:マラソンの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第10週 「保健体育理論」 [予習内容]:保健体育理論の内容理解 [復習内容]:授業内容についてまとめること 第11週 「球技・レクリエーションスポーツ」 [予習内容]:卓球の内容の理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第12週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第13週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第14週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 第15週 「新体力テスト」 [予習内容]:新体力テストの内容理解 [復習内容]:内容に応じた反復練習 定期試験		<b>■ 授業概要・方法等</b> 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理する為の基本知識を養う事を目標とします。各競技ごとに班分けを行い作戦・役割分担を決めて競技を行う。 <b>■ 使用言語</b> 日本語 <b>■ 学習・教育目標および到達目標</b> 受講者は、この授業を履修することにより、 1. (D-G2)(D-2) 集団行動を通じて協調性を養う。 2. (D-G2)(D-2) 多種多様なスポーツの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚えることができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーDの達成に関与しています。 <b>■ 試験・課題に対するフィードバック方法</b> 試験終了後の講義で答案用紙を返却し、解答を解説します。 <b>■ 教科書</b> 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」大修館 <b>■ 参考文献</b> 特にありません。 <b>■ 関連科目</b> 保健・健康科学 <b>■ 成績評価方法および基準</b> 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方から評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)と定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。 <b>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)</b> 2月に「学修時間に関する調査」を実施します。 <b>■ 教員所在場所</b> 3号館1階体育教官室(辻本)、2号館共通教養室(栗本) <b>■ 授業評価アンケート実施方法</b> 2月に Web にてアンケートを実施します。 <b>■ メールアドレス</b> r-ikedada@kct.ac.jp <b>■ オフィスアワー</b> 水・金曜日(11:00～12:00)	

科目名: <b>解析学 4a</b>			
英文名: Analysis 4a			
担当者: 小西 正秀		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「複素関数 正則関数(複素数と極形式) 」 [予習内容]: 複素数と極形式について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 2 週 「複素関数 正則関数(絶対値と偏角) 」 [予習内容]: 複素数の絶対値と偏角について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 3 週 「複素関数 正則関数(複素関数) 」 [予習内容]: 複素関数について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 4 週 「複素関数 正則関数(正則関数) 」 [予習内容]: 正則関数について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 5 週 「複素関数 正則関数(コーシー・リーマンの関係式) 」 [予習内容]: コーシー・リーマンの関係式について調べること。 (30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 6 週 「複素関数 正則関数(正則関数による写像) 」 [予習内容]: 正則関数による写像について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 7 週 「複素関数 正則関数(学関数) 」 [予習内容]: 正則関数の逆関数について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 8 週 「正則関数に関する演習 」 [予習内容]: 今まで学んだ内容について復習すること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第 9 週 「中間考査答案返却・解答、複素積分(複素積分) 」 [予習内容]: 複素積分について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第10週 「複素積分(コーシーの積分定理) 」 [予習内容]: コーシーの積分定理について調べる(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第11週 「複素積分(コーシーの積分表示) 」 [予習内容]: コーシーの積分表示について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第12週 「複素積分(数列と級数) 」 [予習内容]: 複素数での数列と級数について調べる(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第13週 「複素積分(関数の展開) 」 [予習内容]: 複素関数の展開について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第14週 「複素積分(孤立特異点と留数) 」 [予習内容]: 孤立特異点と留数について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>第15週 「複素積分(留数定理) 」 [予習内容]: 留数定理について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントの解答すること。(30 分)</p> <p>定期試験 第1週から第8週までの講義内容について筆記試験(中間試験)を行う。 (試験時間50分) 第9週から第15週までの講義内容について筆記試験(期末試験)を行 う。(試験時間50分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 基礎数学、微積分学 I II で学んだ実数上での微積分法を基礎に複素数上での微積分法を修得します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)複素関数とはどのようなものかを理解できる。 2. (A-G1)複素関数に関する基本的な定理を理解する。 3. (A-G1)複素関数に関する基本的な計算ができる。 ようになるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーA の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。課題については、授業中の課題は授業時間内に解答する。</p> <p>■ 教科書 新応用数学 大日本図書 ISBN978-4-477- 各担当者作成プリント</p> <p>■ 参考文献 なし</p> <p>■ 関連科目 基礎数学、微分積分学 I・II、応用数学、物理</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 80%、課題・レポート・小テスト 20%を総合して評価します。 最終成績: 2 回の定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められた場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習および復習は、期限までに Google classroom または担当者へ提出すること。10 月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■ 教員所在場所 2号館2階共通教育室科</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■ メールアドレス <a href="mailto:m-konishi@ktc.ac.jp">m-konishi@ktc.ac.jp</a></p> <p>■ オフィスアワー 月・木曜日 12:15～13:00 もしくは Google Classroom にて適宜(初回授業にて説明)</p>	

科目名: <b>解析学 4b</b>			
英文名: Analysis 4b			
担当者: 小西 正秀		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p style="text-align: center;">「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「偏微分 (偏導関数、接平面) 」 [予習内容]: 偏導関数、接平面について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 2 週 「偏微分 (合成関数の微分法、高次偏導関数) 」 [予習内容]: 合成関数の微分法と高次偏導関数について調べる こと。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 3 週 「偏微分(多項式による近似) 」 [予習内容]: 多項式による近似について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 4 週 「偏微分(極大・極小) 」 [予習内容]: 2 変数関数の極大・極小について調べること(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 5 週 「偏微分(陰関数の微分法) 」 [予習内容]: 陰関数の微分法について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 6 週 「偏微分(条件付き極値問題) 」 [予習内容]: 教研月極値問題について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 7 週 「偏微分(包絡線) 」 [予習内容]: 包絡線について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 8 週 「偏微分の応用に関する演習 」 [予習内容]: 今まで学んだないようについて復習すること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第 9 週 「中間審査答案返却・解答、重積分(2 重積分の計算) 」 [予習内容]: 2 重積分の計算について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第10週 「重積分(座標軸の回転) 」 [予習内容]: 座標軸の回転について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第11週 「重積分(極座標による 2 重積分) 」 [予習内容]: 極座標による 2 重積分について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第12週 「重積分(変数変換) 」 [予習内容]: 2 重積分での変数変換について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第13週 「重積分(変数変換) 」 [予習内容]: 2 重積分での変数変換について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第14週 「重積分(広義積分) 」 [予習内容]: 広義積分について調べること。(30 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>第15週 「重積分(2 重積分のいろいろな応用) 」 [予習内容]: 2 重積分のいろいろな応用について調べること。 (60 分) [復習内容]: 配布プリントを解答すること。(30 分)</p> <p>定期試験 第1週から第8週までの講義内容について筆記試験(中間試験)を行う。 (試験時間50分) 第9週から第15週までの講義内容について筆記試験(期末試験)を行 う。(試験時間50分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等 必修科目の「応用数学」で学んだ「偏微分」「重積分」で扱えなかったそ れぞれの応用について修得します。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)偏微分法をもちいて極大・極小、条件付き値問題等について解 くことができる。 2. (A-G1)変数変換をすることによる重積分の計算ができるようになる。 ようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシ ーA の達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に模範解答と学生の試験開示を個々に行う。課題について は、授業中の課題は授業時間内に解答する。</p> <p>■ 教科書 新微積分Ⅱ 大日本図書 ISBN978-4-477-02685-5 新微積分Ⅱ問題集 大日本図書 ISBN978-4-477-02687-9 各担当者作成プリント</p> <p>■ 参考文献 なし</p> <p>■ 関連科目 微分積分学Ⅰ・Ⅱ、応用数学、物理</p> <p>■ 成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 80%、課題・レポート・小テスト 20%を総合して 評価します。 最終成績: 2 回の定期考査成績の平均とします。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～ 80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不 可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められた 場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習および復習は、期限までに Google classroom または担当者へ提出 すること。2 月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■ 教員所在場所 2 号館 2 階 共通教育室科</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■ メールアドレス <a href="mailto:m-konishi@ktc.ac.jp">m-konishi@ktc.ac.jp</a></p> <p>■ オフィスアワー 月・木曜日 12:15～13:00 もしくは Google Classroom にて適宜(初回授業にて説明)</p>	

科目名: <b>中国語初級 a</b>			
英文名: Chinese (beginner's class) a			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 ガイダンス(中国語の概要及び授業の進め方) 予習内容:中国語の文字、文法の特徴について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2 週 発音編(音節の成り立ち、母音1) 予習内容:中国語音節の成り立ち、声調、基本になる母音について調べること。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 3 週 発音編(子音、母音2) 予習内容:子音、複合母音について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4 週 発音編(母音3) 予習内容:鼻音を伴う母音、軽声、発音のr化について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 5 週 発音編(声調の変化、音節のつづり方1) 予習内容:第3声の変化、音節のつづり方について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 6 週 発音編(音節のつづり方2) 予習内容:音節のつづり方、声調符号の位置について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7 週 発音編(発音の総合練習) 予習内容:有気音と無気音の違い、単語や挨拶語の読み方について調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容:第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 9 週 第1課 人称代名詞、挨拶語、名字の聞き方 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10 週 第2課 感謝、お詫びの表現、別れの挨拶 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 11 週 第3課 名前の聞き方、常用名字と名前 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 12 週 第1課～第3課の復習 予習内容:これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題1～3をまとめること(60分)</p> <p>第 13 週 第4課 名詞述語文、“不”の声調変化、“也”の使い方 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題4をまとめること(60分)</p> <p>第 14 週 第5課 反復疑問文、副詞“都” 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題5をまとめること(60分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容:これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容:復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験:第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: この授業は初めて中国語を勉強するものを対象とし、中国語の発音から基本文型と初歩的な会話を学びます。授業は前半において発音・声調を集中的に習い、後半は挨拶語や名詞述語文を中心に基礎文法を修得しつつ、初歩的な会話練習を繰り返すことによって、発音・声調と基礎文型の習熟度を高めていきます。</p> <p>授業方法: ①日本語ローマ字と比べながらピンインを教えます。 ②各課の文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(E-G2) (E-2) 中国語発音記号(ピンイン)を読む、書く、聞く、話す</li> <li>(E-G2) (E-2) 字引きを利用する</li> <li>(E-G2) (E-2) 中国語で挨拶する</li> <li>(E-G2) (E-2) 簡単な自己紹介をすることができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■教科書 鈴木律子著[標準高校中国語]白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期考査成績:定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回。点数比率は記述式70%、リスニング30% 最終成績 :中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90点以上「秀」GP「4」、80点以上～90点未満「優」GP「3」、70点以上～80点未満「良」GP「2」、60点以上～70点未満「可」GP「1」、60点未満「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後1回実施します。点数比率は記述式70%、リスニング30%で、60点以上を合格とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにグーグルクラスルームへ提出すること。10月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>中国語初級 b</b>			
英文名: Chinese (beginner's class) b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1週 第6課 指示代詞、疑問詞“什么”(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2週 第6課 指示代詞、疑問詞“什么”(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題6をまとめること(60分)</p> <p>第 3週 第7課 所属・所有、指示代詞(複数)、疑問詞“谁”(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4週 第7課 所属・所有、指示代詞(複数)、疑問詞“谁”(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題7をまとめること(60分)</p> <p>第 5週 第6課～第7課の復習 予習内容:これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容:復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 6週 第8課 動詞述語文、“呢”を用いた疑問文(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7週 第8課 動詞述語文、“呢”を用いた疑問文(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題8をまとめること(60分)</p> <p>第 8週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容:第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 9週 第9課 形容詞述語文、反復疑問文2(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10週 第9課 形容詞述語文、反復疑問文2(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題9をまとめること(60分)</p> <p>第 11週 第10課 所有を表す“有”、10までの数字、お金の単位(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 12週 第10課 所有を表す“有”、10までの数字、お金の単位(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題10をまとめること(60分)</p> <p>第 13週 第11課 動詞“在”、“一”の声調変化(一) 予習内容:単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容:授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 14週 第11課 動詞“在”、“一”の声調変化(二) 予習内容:本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容:グーグルクラスルームの課題11をまとめること(60分)</p> <p>第 15週 総復習 予習内容:これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容:復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験:第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 前期に引き続き、述語文を一通り学び、指示代詞、疑問詞、所属・所有、数字などの使い方について学習します。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教えます。 ②各課の文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (E-G2) (E-2) 新出単語を書く</li> <li>2. (E-G2) (E-2) 各課の文法事項を把握する</li> <li>3. (E-G2) (E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く</li> <li>4. (E-G2) (E-2) 学習した単語や文型を利用して、簡単な文を書くことができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■教科書</p> <p>鈴木律子著〔標準高校中国語〕 白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献</p> <p>その他の教材。</p> <p>■関連科目</p> <p>特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>定期考査成績:定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回。点数比率は記述式 80%、リスニング 20% 最終成績 :中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90点以上 「秀」GP「4」、80点以上～90点未満 「優」GP「3」、70点以上～80点未満 「良」GP「2」、60点以上～70点未満 「可」GP「1」、60点未満 「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し60点以上あると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後1回記述式(100%)で実施します。60点以上を合格とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにグーグルクラスルームへ提出すること。2月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>中国語中級 a</b>			
英文名: Chinese (intermediate class) a			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第12課 助数詞、曜日(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2 週 第12課 助数詞、曜日(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題12をまとめること(60分)</p> <p>第 3 週 第13課 疑問代詞、動詞の重ね方、10以上の数字(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4 週 第13課 疑問代詞、動詞の重ね方、10以上の数字(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題13をまとめること(60分)</p> <p>第 5 週 第12課～第13課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 6 週 第14課 時間、状態の変化“了”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7 週 第14課 時間、状態の変化“了”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題14をまとめること(60分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 9 週 第15課 月日・曜日の表し方、“太”の使い方(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10 週 第15課 月日・曜日の表し方、“太”の使い方(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題15をまとめること(60分)</p> <p>第 11 週 第16課 時を表す文、一日の行動 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 12 週 第16課 時を表す文、一日の行動 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題16をまとめること(60分)</p> <p>第 13 週 第17課 時間を表す語2、“喜欢”の使い方(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 14 週 第17課 時間を表す語2、“喜欢”の使い方(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: ゲーグルクラスルームの課題17をまとめること(60分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容: 第9週から第14週で学習した内容を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 「中国語初級」で習得した発音を定着させつつ、基礎文法、基礎語彙、基礎会話を習得します。それにより中国語コミュニケーション基礎表現力の向上を図ります。 前期において、場所、時間、月日、曜日の表し方や疑問代詞、助数詞、動詞の重ね型などについて学習します。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教えます。 ②単語、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2) (E-2) 新出単語を書く 2. (E-G2) (E-2) 各課の文法事項を把握する 3. (E-G2) (E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く 4. (E-G2) (E-2) 学習した単語や文型を利用して、文を書く ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■ 教科書 鈴木律子[標準高校中国語]白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■ 参考文献 その他の教材。</p> <p>■ 関連科目 特にありません。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 定期考査成績: 定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回。点数比率は記述式 80%、リスニング 20% 最終成績 : 中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90 点以上 「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満 「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満 「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満 「可」GP「1」、60 点未満 「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後 1 回記述式(100%)で実施します。60 点以上を合格とします。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにゲーグルクラスルームへ提出すること。10月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■ 教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■ メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>中国語中級 b</b>			
英文名: Chinese (intermediate class) b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第18課 完了の表現、“怎么”、前置詞“给”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2 週 第18課 完了の表現、“怎么”、前置詞“给”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題18をまとめること(60分)</p> <p>第 3 週 第19課 連動文、過去の経験、伝聞を表す“听说”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4 週 第19課 連動文、過去の経験、伝聞を表す“听说”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題19をまとめること(60分)</p> <p>第 5 週 第18課～第19課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 6 週 第20課 “可以”、“想”、中国の外来語(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7 週 第20課 “可以”、“想”、中国の外来語(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題20をまとめること(60分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 9 週 第21課 “会”、“能”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10 週 第21課 “会”、“能”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題21をまとめること(60分)</p> <p>第 11 週 第21課の復習 予習内容: 第21課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 12 週 第22課 助動詞“要”、前置詞“跟”、“在”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 13 週 第22課 助動詞“要”、前置詞“跟”、“在”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題22をまとめること(60分)</p> <p>第 14 週 第22課の復習 予習内容: 第22課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■ 授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 前期に引き続き、完了や経験などを表す文、連動文、伝聞の表現、助動詞や前置詞などについて学習します。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教えます。 ②各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■ 使用言語 日本語</p> <p>■ 学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(E-G2) (E-2) 新出単語を書く</li> <li>(E-G2) (E-2) 各課の文法事項を把握する</li> <li>(E-G2) (E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く</li> <li>(E-G2) (E-2) 学習した単語や文型を利用して、文を書くことができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■ 試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■ 教科書 鈴木律子[標準高校中国語]白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■ 参考文献 その他の教材。</p> <p>■ 関連科目 特にありません。</p> <p>■ 成績評価方法および基準 定期考査成績: 定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回、点数比率は記述式 80%、リスニング 20% 最終成績 : 中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90 点以上 「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満 「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満 「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満 「可」GP「1」、60 点未満 「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後 1 回記述式(100%)で実施します。60 点以上を合格とします。</p> <p>■ 授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにグーグルクラスルームへ提出すること。2月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■ 教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■ 授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■ メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■ オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>中国語上級 a</b>		英文名: Chinese ( upper class) a	
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第23課 持続の表現、動作の回数“次”、方位詞(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2 週 第23課 持続の表現、動作の回数“次”、方位詞(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題23をまとめること(60分)</p> <p>第 3 週 第24課 進行を表す“在”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4 週 第24課 進行を表す“在”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題24をまとめること(60分)</p> <p>第 5 週 第23課～第24課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 6 週 第25課 主述述語文、助動詞“要”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7 週 第25課 主述述語文、助動詞“要”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題25をまとめること(60分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 9 週 第26課 前置詞“离”、副詞“就”の使い方(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10 週 第26課 前置詞“离”、副詞“就”の使い方(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題26をまとめること(60分)</p> <p>第 11 週 第26課の復習 予習内容: 第26課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 12 週 第27課 程度補語、選択疑問文 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 13 週 第27課 程度補語、選択疑問文 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題27をまとめること(60分)</p> <p>第 14 週 第27課の復習 予習内容: 第27課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容: 第9週から第14週で学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 授業概要: 「中国語初級」、「中国語中級」で習得した発音、基礎文法、基礎語彙を定着させつつ、更なる文法事項や語彙、会話表現を習得します。 前期において、持続、進行を表す文や主述述語文、選択疑問文、方位詞、程度補語、前置詞“离”、副詞“就”などの使い方について学習します。 授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教えます。 ②各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2) (E-2) 新出単語を書く 2. (E-G2) (E-2) 各課の文法事項を把握する 3. (E-G2) (E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く 4. (E-G2) (E-2) 学習した単語や文型を利用して文を書くことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■教科書 鈴木律子〔標準高校中国語〕白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期考査成績: 定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回。点数比率は記述式 80%、リスニング 20% 最終成績 : 中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90点以上 「秀」GP「4」、80点以上～90点未満 「優」GP「3」、70点以上～80点未満 「良」GP「2」、60点以上～70点未満 「可」GP「1」、60点未満 「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後1回記述式(100%)で実施します。60点以上を合格とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにグーグルクラスルームへ提出すること。10月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>中国語上級 b</b>			
英文名: Chinese ( upper class) b			
担当者: 小林 千津(王樹岩)		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 中国出身、公立高校で非常勤講師として勤務。商社で通訳、翻訳としての勤務経験もあり。		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当あり			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 第28課 “是…的”の文、二重目的語の文(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 2 週 第28課 “是…的”の文、二重目的語の文(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題28をまとめること(60分)</p> <p>第 3 週 第29課 比較の文(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 4 週 第29課 比較の文(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題29をまとめること(60分)</p> <p>第 5 週 第28課～第29課の復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 6 週 第30課 結果補語、前置詞“从”(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 7 週 第30課 結果補語、前置詞“从”(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題30をまとめること(60分)</p> <p>第 8 週 第1週～第7週で学習したことについて総復習。中間テスト・答案返却・解答解説 予習内容: 第1週から第7週で習ったことについて調べること(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 9 週 第31課 方向補語、自然現象の表し方(一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 10 週 第31課 方向補語、自然現象の表し方(二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: グーグルクラスルームの課題31をまとめること(60分)</p> <p>第 11 週 第31課の復習 予習内容: 第31課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 12 週 第32課 “打算”、“祝”の使い方 (一) 予習内容: 単語や文法事項に目を通し、問題点を押さえておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 13 週 第32課 “打算”、“祝”の使い方 (二) 予習内容: 本文を翻訳しておく。(30分) 復習内容: 授業内容を読み返し、理解を深める。(60分)</p> <p>第 14 週 第32課の復習 予習内容: 第32課で学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分)</p> <p>第 15 週 総復習 予習内容: これまで学習した発音や単語、文法事項、本文を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。(30分) 復習内容: 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。(60分) 定期試験: 第1回から15回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>授業概要: 後期において、過去の事実、2つ目的語をとる動詞、比較、結果補語、形容詞などについて学習します。</p> <p>授業方法: ①中国背景を紹介しながら各課の重要な表現を教えます。 ②各課の基本文型や文法事項を教え、本文の反復音読やロールプレイでの練習をさせます。 ③練習問題を使って理解を深め、熟練さをあげます。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(E-G2) (E-2) 新出単語を書く</li> <li>(E-G2) (E-2) 各課の文法事項を把握する</li> <li>(E-G2) (E-2) 各課の本文を読む、書く、話す、聞く</li> <li>(E-G2) (E-2) 学習した単語や文型を利用して、文を書くことができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に關与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験返却を行い、解説と共通弱点の補強練習をする。課題については、授業中の課題は授業時間内で解答します。</p> <p>■教科書 鈴木律子[標準高校中国語]白帝社 ISBN978-4-86398-243-7</p> <p>■参考文献 その他の教材。</p> <p>■関連科目 特にありません。</p> <p>■成績評価方法および基準 定期考査成績: 定期試験(100%) 定期試験は中間と期末の2回、点数比率は記述式 80%、リスニング 20% 最終成績 : 中間と期末の定期考査成績の平均点で算出します。ただし、小数点以下を切り捨てます。 90 点以上 「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満 「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満 「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満 「可」GP「1」、60 点未満 「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し 60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。 再試験は各定期試験後 1 回記述式(100%)で実施します。60 点以上を合格とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 予習及び復習は期限までにグーグルクラスルームへ提出すること。2月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階 職員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月に授業アンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス kobayashi@kct.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 随時</p>	

科目名: <b>韓国語 I a</b> 英文名: Korean Language I a		開講年度: 2022 年度(令和4年度)	
担当者: 李 辰淑		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
実務経験の内容: 市立小学校国際理解特別非常勤講師 県立高校非常勤講師		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: あり	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 1 課: 韓国の紹介ハングル文字のしくみ、 [予習内容]:ハングル文字の仕組みを事前に調べる。(30 分) [復習内容]:授業内容を復習し、発音、文字を覚える。(60 分)</p> <p>第 2 週 1 課 文字と発音(1) 単母音、初声、その1(鼻音・流音) [予習内容]:WEB 学習で文字と発音が一致するよう学習(30 分) [復習内容]:発音と書き練習、文字を覚える。(60 分)</p> <p>第 3 週 1 課 応用と復習 終声・その1 [予習内容]:WEB 学習で文字と発音が一致するよう学習(30 分) [復習内容]:文字の読み書きをしっかりと覚える。(60 分)</p> <p>第 4 週 1 課 応用と復習 2 課文字と発音(2) 初声。その2(平音) 発音の規則・有声音化 [予習内容]:WEB 学習で文字と発音の学習(30 分) [復習内容]:文を発音し書いて練習する。(60 分)</p> <p>第 5 週: 2 課 半母音+単母音、二重母音、発音の規則連音化 [予習内容]:WEB 学習で文字の読み書きの練習(30 分) [復習内容]:発音通りに文字を書いて声出して読む。(60 分)</p> <p>第 6 週 2 課 応用と復習 3 課 文字と発音(3) 初声・その3激音 初声 4 (濃音) [予習内容]:WEB 学習で文字と発音の学習(30 分) [復習内容]:発音の仕組みを理解する。発音の練習(60 分)</p> <p>第 7 週 3 課 終声その2、発音の規則:濃音化 [予習内容]:WEB 学習で文字の読み書きの練習(30 分) [復習内容]:発音の規則を理解する。発音の練習(60 分)</p> <p>第 8 週 「答案返却と解答」 終声2、濃音化の復習 [予習内容]:WEB 学習で文字と発音の学習(30 分) [復習内容]:発音の規則を理解する。発音の練習(60 分)</p> <p>第 9 週 4 課 韓国人です。鼻音化。助詞、ハムニダ体の丁寧表現 ～です。 [予習内容]:WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]:助詞の使い分け、発音の規則、鼻音化理解(60 分)</p> <p>第10週 4 課 助詞、～は、～と申します。 [予習内容]:WEB 学習で文字と発音の練習(30 分) [復習内容]:助詞の使い分け、丁寧表現の仕組みを理解する。 (60 分)</p> <p>第11週 5 課 韓国語は専攻ではありません。～が、～です(ハヨ体)、 [予習内容]:WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]:発音の規則激音化、助詞の使い分けの理解(60 分)</p> <p>第12週 5 課 ハヨ体の丁寧表現、否定文～ではありません [予習内容]:WEB、音声で文字と発音の練習をする。(30 分) [復習内容]:丁寧表現、否定文の仕方を理解する。(60 分)</p> <p>第13週 6 課: 講義室は階段の横にあります。パッチム、漢数詞 [予習内容]:WEB、音声で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]:二つの字母のパッチムの発音の仕組みと漢数詞を理解する。(60 分)</p> <p>第14週 6 課 存在の有無をあらわす表現 [予習内容]:WEB、音声で日本と違う表現を理解する。(30 分) [復習内容]:練習問題を通して日本と違う存在の表現になれるようにする。(60 分)</p> <p>第15週 4 課～6 課までの応用と復習 [予習内容] 4 課～6 課までの内容を WEB 学習と音声を通して聞き取りができるようにする。(30 分) [復習内容]:授業内容を基に聞き取り、読み書きが出来、自己表現出来るようにする(60 分) 定期試験: 第1週から15週まで授業内容について筆記とリスニング試験 (中間考査)(期末考査)(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 韓国語を学ぶ事で言葉の理解は勿論、その国の文化を理解する事で日韓の若者のコミュニケーションの場を広げるきっかけになることを目指します。 韓国語基礎編では日本語にはない母音、子音の基本的発音の違いから初めて、子音と子音がぶつかる時に起きる色んな音の変化の仕組みを学習しずつ発音の仕方、聞き取り、書き取りが出来るよう積極的に取り組みます。</p> <p>■使用言語 日本語、韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)基礎の読み書きを正確に覚えることで正しい発音が出来て、聴く、書く、話す力を確実に付ける事が出来る学習を目標とします。 2. (E-G2 韓国語と日本語の語順は同じですので、助詞の使い方、いくつかの規則を習得して、語学力を向上させて簡単な意思疎通が出来る事を目指します。この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーEの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせます。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 一コソコソ学び、カジュアルに話そうー朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ¥2300+税</p> <p>■参考文献 NAVER 日韓辞書(APP)</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類:定期試験2回、課題提出 方式:記述式、リスニング 成績基準: 中間試験 100% 期末試験:定期試験(80%) 夏季課題(20%) 最終成績:中間試験成績と期末考査成績の平均点とします。 夏季課題が未提出の場合は最終成績に加算されず本試験のみで判断します。 再試験の可否基準は(中間 100%)(期末 80%夏季課題 20%)の評価割合で 60 点以上を合格とします。 再試験の合格点に達していない場合は補講を受ける条件で再々試験を受けられます。</p> <p>90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上あると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 復習として出す課題は次回の授業にレポートで提出する事。 「韓国語の世界へ」WEB 映像・音声 WEB で聞き取り、発音の予習・復習に取り組みます。 その他教材に記載されていない問題などの読み方に関しての音声は MP3 レコーダーを利用してグーグルクラスルームで音声の確認が出来ます。 10 月に学修時間に関する調査を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館 1 階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス paranmaum9@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー 土曜日 Am:( 8:30～12:30 )</p>	

科目名：韓国語 I b			
英文名：Korean Language I b			
担当者：李 辰淑		開講年度：2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容： 市立小学校国際理解特別非常勤講師 県立高校非常勤講師		アクティブ・ラーニングの形態：該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング：あり	
工学科：総合システム	学年：4	開講期：後期	コース：全
科目種別：選択	単位数：1	授業形態：講義	単位の種別：履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 「答案返却と解答」 7 課午後 時間大丈夫ですか？ [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: ヘヨ体作り 1 の基本をしっかりと理解する。(60 分)</p> <p>第 2 週 7 課 ヘヨ体 I、助詞 [予習内容]: ヘヨ体1を正確に理解する。(30 分) [復習内容]: ヘヨ体1に活用させて音声で発音し、用言の意味を理解する、助詞の使い分けを理解する。(60 分)</p> <p>第 3 週 8 課 小学生に手今度を教えています。 [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: 指示詞、ヘヨ体2の仕組みと意味を正確に理解する。(60 分)</p> <p>第 4 週 8 課 ヘヨ体の作り2、助詞 [予習内容]: ヘヨ体作り2を活用する。(30 分) [復習内容]: 助詞の使い分け、ヘヨ体2の仕組み、意味を正確に理解する。(60 分)</p> <p>第 5 週 9 課 普通 6時に起きます。 [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: ヘヨ体作り2の仕組みを正確に理解する。(60 分)</p> <p>第 6 週 9 課 助詞、固有数詞 [予習内容]: WEB 学習で固有数詞を理解する。(30 分) [復習内容]: 固有数詞と助数詞を使って例文を作る。(60 分)</p> <p>第 7 週 10 課 野球がとても好きです。 [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: ヘヨ体作り4の仕組みを正確に理解する。(60 分)</p> <p>第 8 週 「答案返却と解答」 10 課 ヘヨ体作り4、～しに [予習内容]: WEB 学習で発音と意味を理解する。(30 分) [復習内容]: 連結語尾 を使って文章を繋いでみる。(60 分)</p> <p>第 9 週 ヘヨ体1, 2, 3, 4の応用 [予習内容]: ヘヨ体1, 2, 3, 4の仕組みを正確に理解する。(30 分) [復習内容]: 授業内容をもとヘヨ体1, 2, 3, 4、助詞、連結語尾の使い分けを正確に理解する。(60 分)</p> <p>第10週 11 課 お昼食べませんでした？ [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: ヘヨ体1, 2, 3, 4の過去形を活用する。(60 分)</p> <p>第11週 11 課 〇変則用言 否定文 ～しない ～くない [予習内容]: 〇変則用言理解しておく。(30 分) [復習内容]: 授業内容を基に〇変則用言の規則、否定文を正確に理解する。(60 分)</p> <p>第12週 ヘヨ体1, 2, 3, 4の過去形、〇変則用言の応用 「予習内容」: WEB、音声で聞き取りや読めるようにする。(30分) [復習内容]: ヘヨ体1, 2, 3, 4の過去形、〇変則用言の仕組みを正確に理解し、応用力で自己表現出来るようにする。(60 分)</p> <p>第13週 12 課: 春休みに何をするつもりですか？～でいらつしゃる [予習内容]: WEB 学習で本文の内容を理解する。(30 分) [復習内容]: 授業内容を基に尊敬形を理解する。(60 分)</p> <p>第14週 12 課 ～するつもりです。～するでしょう [予習内容]: WEB、音声で聞き取りや読めるようにする。(30分) [復習内容]: 授業内容を基に推量を表す表現に変える。(60分)</p> <p>第15週 ヘヨ体1, 2, 3, 4 現在形、過去形、〇変則活用応用と総復習、 [予習内容]: WEB、音声で聞き取り、読み、文法の活用方を理解する。(30 分) [復習内容]: 今までの授業内容を基に自己表現出来るようにする。(60 分)</p> <p>定期試験: 第1週から15週まで授業内容について筆記とリスニング試験(中間考査、期末考査)(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 韓国語を学ぶ事で言葉の理解は勿論、その国の文化を理解する事で日韓の若者のコミュニケーションの場を広げるきっかけになることを目指します。 韓国語基礎編では日本語にはない母音、子音の基本の発音の違いから初めて、子音と子音がぶつかる時に起きる色々な音の変化の仕組みを学習しつつ発音の仕方、聞き取り、書き取りが出来るよう積極的に取り組みます。</p> <p>■使用言語 日本語、韓国語 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)韓国語の一番基礎となるヘヨ体の基本1, 2, 3, 4(現在形、過去形)といくつかの変則活用用言を応用問題等で繰り返し練習することで言葉の仕組みの理解を確実に付ける事が出来る学習を目標とします。 2. (E-G2) 韓国語と日本語の語順は同じです。助詞の使い方、いくつかの規則を習得して、語学力を向上させて簡単な意思疎通が出来る事を目指します。この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるデプロマポリシーEの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせをします。</p> <p>■教科書 (韓国語の世界へ) 入門編 一コマツツ学び、カジュアルに話そうー朝日出版社 ISBN978-4-255-55647-5 C1087 ¥2300+税</p> <p>■参考文献 NAVER 日韓辞書(APP) ■関連科目 特になし ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験2回、課題提出 方式: 記述式、リスニング 成績基準: 中間試験 100% 期末試験: 定期試験(80%) 冬季課題(20%) 最終成績: 中間試験成績と期末考査成績の平均点とします。 冬季課題が未提出の場合は最終成績に加算されず本試験のみで判断します。 再試験の可否基準は(中間 100%)(期末 80%夏季課題 20%)の評価割合で 60 点以上を合格とします。 再試験の合格点に達していない場合は補講を受ける条件で再々試験を受けられます。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し 60 点以上あると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 復習として出す課題は次回の授業にレポートで提出する事。 「韓国語の世界へ」WEB 映像・音声 WEB で聞き取り、発音の予習・復習に取り組みます。 その他教材に記載されていない問題などの読み方に関しての音声は MP3 レコーダーを利用してグーグルクラスルームで音声の確認が出来ます。 10 月に学修時間に関する調査を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館 1 階 ■授業評価アンケート実施方法 10 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス paranmaum9@gmail.com ■オフィスアワー 土曜日 Am:( 8:30～12:30 )</p>	

科目名: <b>韓国語 II a</b>		開講年度: 2022年度(令和4年度)	
英文名: Korean Language II a		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
担当者: 李 辰淑		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: あり	
実務経験の内容: 市内市立小学校国際理解特別非常勤講師 県立高校の非常勤講師			
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1週 1課 何学番ですか?</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 初級で学習したへヨ体作り1, 2, 3, 4の現在形、過去形をもう一度正確に理解できるよう復習をする。(プリント参考)(60分)</p> <p>第 2週 1課 ハムニダ体 1課 振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: ハムニダ体作りの現在形、過去形の復習をする。(60分)</p> <p>第 3週 2課 韓国語を一所懸命勉強するつもりです。</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を復習する。(60分)</p> <p>第 4週 2課 ～でしょう、2課の振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を復習する。(60分)</p> <p>第 5週 3課: あの靴、ちょっと見せてください。～ だが、～けれど</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を復習する。(60分)</p> <p>第 6週 3課: 形容詞の連体形 3課の振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項(形容詞の現在形連体形)を理解する。(60分)</p> <p>第7 週 4課: 良く行く韓国料理屋さんがあれば紹介して下さい</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 8週 「答案返却と解答」 4課: 動詞、存在詞の現在連体形</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>(動詞、存在詞の現在連体形の仕組み)(60分)</p> <p>第 9週 4課 動詞、存在詞の現在連体形、否定文、4課の振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第10週 5課: 一緒に写真を添付いたしました。動詞過去連体形</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>(動詞の過去形連体形の仕組み)(60分)</p> <p>第11週 5課: ～ですね。～ますね、ㄷ変則活用の用言 5課振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(ㄷ変則活用の用言)(60分)</p> <p>第12週 6課: 発表時間に遅れて申し訳ございません。</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業の内容を基に尊敬語、連結語尾を理解する(60分)</p> <p>第13週 6課: ～で、～ので、動詞・存在詞の 未来連体形・・・する</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業の内容を基に文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第13週 6課: 不可能の意味～できない 6課振り返り復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて発音し、内容も理解する。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第14週 1課～3課まで授業で学んだ内容を文法に用いて応用と総復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業の内容を基に文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第15週 4課～6課まで授業で学んだ内容を文法に用いて応用と総復習</p> <p>[予習内容]: 音声を聴いて本文の内容の理解と読む練習。(30分)</p> <p>[復習内容]: 授業の内容を基に文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>へヨ体1, 2, 3, 4.(現在形、過去形、変則用言活用)、連体形(現在形、過去形、未来形を纏めたプリント物で総復習。(60分)</p> <p>定期試験</p> <p>第8週から15週までの授業内容に基づいて筆記テスト、リスニング試験 期末考査(試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>初級で学んだ基礎を基に変則活用用言を含め様々な活用を活かす練習を重ねて語彙力を上げて日常会話、自己表現が出来る事を目指します。</p> <p>講義方法: 韓国語の一番基本となるへヨ体(現在形、過去形、未来形)、連体形(現在形、過去形、未来形)を練習、応用問題などで正しく学習させる、特に変則活用用言は毎回取り込むことで理解力を高めます。</p> <p>グーグルクラスルームで問題の音声の確認、答え合わせが出来ます。</p> <p>■使用言語</p> <p>日本語、韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者は、この授業を履修することによって、</p> <p>1. (E-G2) 初級で学んだ基礎を基に語彙力を高めて授業中の講師の言葉の理解が出来る、積極的に話す、質問することが出来る授業にすることを目標とします。</p> <p>2. (E-G2) 相手の国の言葉を知らずにその国を理解する事は出来ない</p> <p>韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深めることが出来、これからの日韓の友好関係の維持の為若者のコミュニケーションの場を広げるきっかけになる事を目標にする。この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーEの達成に関与している。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせます。</p> <p>■教科書</p> <p>改訂版「韓国語の世界へ(初中級編)</p> <p>一ツツツ学び、カジュアルに話そう一朝日出版社</p> <p>ISBN978-4-255-55644-4 C1087 ¥2,200+税</p> <p>■参考文献 ★NAVER日韓辞書(APP)</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>種類: 定期試験2回、課題提出</p> <p>方式: 記述式、リスニング</p> <p>定期試験: 中間考査100%</p> <p>期末試験: 定期試験80%+夏季課題20%で評価します</p> <p>最終成績: 定期考査(2回)成績の平均で評価します。</p> <p>夏季課題が未提出の場合最終成績に加算されず本試験のみで判断します。</p> <p>■再試験の基準: (中間100%)(期末80%夏季課題20%)の評価割合で60点以上を合格とします。</p> <p>★再試験の合格点に達していない場合は補講を受ける条件で再々試験を受けることにします。</p> <p>90点以上「秀」GP[4]、80点以上～90点未満「優」GP[3]、70点以上～80点未満「良」GP[2]、60点以上～70点未満「可」GP[1]</p> <p>60点未満で「不可」GP[0]とします。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められた場合は合格(素点)「加」GP[0]とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等)</p> <p>復習として出す課題は次回の授業にレポートで提出する事。問題の解答は次回グーグルクラスルームで確認できます。</p> <p>予習、復習の際に必要な教材で載っていない問題の読み方の音声はMP3レコーダーを利用してグーグルクラスルームで音声の確認ができます。</p> <p>10月に学修時間に関する調査を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>10月にWebにてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス</p> <p>paranmaum9@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>土曜日Am: ( 8:30～12:30 )</p>	

科目名：韓国語 II b		開講年度：2022年度(令和4年度)	
英文名：Korean Language II b		アクティブ・ラーニングの形態：該当なし	
担当者：李 辰淑		ICTを活用したアクティブ・ラーニング：あり	
実務経験の内容： 市内市立小学校国際理解特別非常勤講師 県立高校の非常勤講師			
工学科：総合システム	学年：4	開講期：後期	コース：全
科目種別：選択	単位数：1	授業形態：講義	単位の種別：履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「答案返却と解答」 7課:暑い夏にサンゲタンを食べます。 [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 2週 7課～したことがある/ない。～でいる。(ㄹ変則活用) [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 3週 7課の振り返り復習 (ㄹ変則活用) [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項(ㄹ変則活用)を理解する。(60分)</p> <p>第 4週 8課:重たくないので一人でします。～している [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 5週 8課～ので。～しますね。8課の振り返り復習、 [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 6週 「9課 パソコン少し借りてもいいですか?」 [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 7週 :9課 ～けど ～でもいい ㄹ変則用言 9課振り返り復習 [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 8週 「答案返却と解答」 10課 리ムジンバスは楽ですよ!話し手の意思 [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項(ㄹ変則)を正確に理解する。(60分)</p> <p>第 9週 10課 ～んですよ、～しなければならぬ 10課振り返り復習 [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第10週 11課 陶磁器を作ってみました、、～してみましようか? [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第11週 11課 ～してみる～出来る～出来ない 11課振り返り復習 [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第12週 12課:韓国の会社に就職しようと思っています。 [予習内容]: 音声を聴いて聞き取りと本文の内容を理解する(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第13週 12課～するそうだ/したそうだ/しそうだ～しようと思う [予習内容]: 音声を聴いて意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んださまざまな連体形の文法事項を正確に理解する。(60分)</p> <p>第14週 12 課 してはいけない。12課振り返り復習 [予習内容]: CD、音声で意味と聞き取りが出来る事。(30分) [復習内容]: 授業で学んだ文法事項を正確に理解する。(60分) 応用力を身につけて自己表現出来るように学習する(60分)</p> <p>第15週 : これまでの応用と総復習 [予習内容]: もう一度今までの本文の内容を聴いて聞き取りが出来るように予習する。 [復習内容]: へヨ体作り、連体形(現在形、過去形、未来形)、変則をもう一度正確に理解して振り返り復習する。(60分)</p> <p>定期試験 第1週から15週までの授業内容に基づいて筆記テスト、リスニング試験 中間考査、期末考査(試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 常に基本となる文法を応用問題等で繰り返し学習することで読み、書き、聞き取りを含めて文法の理解は勿論、日常会話、自己表現が出来るよう指導します。 講義方法:教材を中心に練習問題及び応用問題等を通して様々な活用が出来るように授業を進行しながらグループワークで問題の音声、答え合わせが出来ます。</p> <p>■使用言語 日本語、韓国語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)言葉の理解が出来るように、単語の意味を覚えて語彙力を上げて積極的に話す、質問できるような授業にすることを目標とします。 2. (E-G2)相手の国の言葉を知らずにその国を理解する事は出来ない、韓国の言葉を通して見えてくるその隣国の文化の理解を深めることが出来、これからの日韓の友好関係の維持の為若者のコミュニケーション場を広げるきっかけになる事を目標にする。 この科目の履修は本校総合システム工学科の定めるダイブプロマボリン-Eの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 定期試験及び課題の模範解答を提示して答え合わせます。</p> <p>■教科書 改訂版・韓国語の世界へ(初中級編) コソコソ学び、カジュアルに話そうー朝日出版社 ISBN978-4-255-55644-4 C1087 ¥2,200+税</p> <p>■参考文献 NAVER 日韓辞書(APP)</p> <p>■関連科目 特になし</p> <p>■成績評価方法および基準 種類:定期試験1回、方式:記述式、リスニング 期末試験80%+冬季課題20%で評価します 最終成績:期末80%冬季課題20%で評価します。 冬季課題が未提出の場合最終成績に加算されず本試験のみで判断します。 再試験の基準:(期末80%冬季課題20%)の評価割合で60点以上を合格とします。★再試験の合格点に達していない場合は補講を受ける条件で再々試験を受けることにします。</p> <p>90点以上「秀」GP[4]、80点以上～90点未満「優」GP[3]、70点以上～80点未満「良」GP[2]、60点以上～70点未満「可」GP[1] 60点未満で「不可」GP[0]とします。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められた場合は合格(素点)「加」GP[0]とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等) 復習として出す課題は次回の授業にレポートとして提出する事。 予習、復習の際に必要な教材に載っていない問題の読みかたの音声はMP3レコーダーを利用してグループワークスルームで音声の確認が出来ます。 2月に学修時間に関する調査を実施します。</p> <p>■教員所在場所 図書館1階</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月にWebにてアンケートを実施します。 ■メールアドレス paranmaum9@gmail.com</p> <p>■オフィスアワー 土曜日Am:( 8:30～12:30 )</p>	

科目名: <b>英語演習 4b</b>			
英文名: English Seminar 4b			
担当者: 上田 透		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 演習	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 Unit 1 Music and the Mind [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 2 週 Unit 1 Music and the Mind [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 3 週 Unit 2 Body Language across Cultures [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 4 週 Unit 2 Body Language across Cultures [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 5 週 Unit 3 Turning Waste into Wealth [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 6 週 Unit 3 Turning Waste into Wealth [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 7 週 Unit 4 The Search for Other Worlds [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 8 週 Unit 4 The Search for Other Worlds [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 9 週 Unit 5 Crowdsourcing [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第10週 Unit 5 Crowdsourcing [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第11週 Unit 6 Urban Landmarks [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第12週 Unit 6 Urban Landmarks [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第13週 Unit 7 Food Safety [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第14週 Unit 7 Food Safety [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第15週 Unit 8 Spending a Fortune [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 教科書に沿った授業展開をし、様々なトピックを扱った英語を、読む、書く、聞く、話す活動を通して、トピックの理解に必要な語彙や文法を習得し、読解と聞き取りの能力向上を目指します。対面授業開始までは、語彙、英文読解に関して、遠隔授業を実施します。</p> <p>■使用言語 日本語・英語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)(E-2)トピックの内容を把握するのに必須の語彙を習得する。 2. (E-G2)(E-2)英文の精読によって、読解力を身に着ける。 3. (E-G2)(E-2)トピックに関することを英語で表現する。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーEの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 Reading Fusion 1(南雲堂) 978-4-523-17664-0</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 英語 1、英語 2、英語 3、英語 4、英語特講、TOEIC プラス、外国文献講読</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 100%で評価します。 最終成績: 1 回の定期考査の成績とします。 90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 次の授業でやる箇所を予め辞書等を用いて調べておくこと 授業で指定された、単語、熟語、表現、文法事項を覚えること</p> <p>■教員所在場所 本館 1 階学生部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 ○月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス ueda@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日と木曜日の 12 時 15 分～12 時 55 分</p>	

科目名: <b>英語演習 4b</b>			
英文名: English Seminar 4b			
担当者: 上田 透		開講年度: 2022 年度(令和 4 年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICT を活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 演習	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第 1 週 Unit 8 Spending a Fortune [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 2 週 Unit 9 Wonders of the Deep [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 3 週 Unit 9 Wonders of the Deep [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 4 週 Unit 10 Product Placement [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 5 週 Unit 10 Product Placement [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 6 週 Unit 11 White-collar Crime [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 7 週 Unit 11 White-collar Crime [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 8 週 Unit 12 Working Disabled [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第 9 週 Unit 12 Working Disabled [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第10週 Unit 13 Pet Therapy [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第11週 Unit 13 Pet Therapy [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第12週 Unit 14 Quantum Computer [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第13週 Unit 14 Quantum Computer [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第14週 Unit 15 Breaking the Poverty Cycle [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>第15週 Unit 15 Breaking the Poverty Cycle [予習内容]: 新出の単語、熟語、文法事項を調べること(60 分) [復習内容]: 授業で扱った単語、熟語、文法事項を覚えること(30 分)</p> <p>定期試験 第 1 回から 15 回までの講義内容について筆記試験を行う。(試験時間 50 分)</p>		<p>■授業概要・方法等 教科書に沿った授業展開をし、様々なトピックを扱った英語を、読む、書く、聞く、話す活動を通して、トピックの理解に必要な語彙や文法を習得し、読解と聞き取りの能力向上を目指します。</p> <p>■使用言語 日本語・英語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (E-G2)(E-2)トピックの内容を把握するのに必須の語彙を習得する。 2. (E-G2)(E-2)英文の精読によって、読解力を身に着ける。 3. (E-G2)(E-2)トピックに関することを英語で表現する。 ことができるようになります。 この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーEの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験終了後に、模範解答と学生の試験開示を個々に行う。</p> <p>■教科書 Reading Fusion 1(南雲堂) 978-4-523-17664-0</p> <p>■参考文献 なし</p> <p>■関連科目 英語 1、英語 2、英語 3、英語 4、英語特講、TOEIC プラス、外国文献講読</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1 回)、方式: 記述式 定期考査成績: 定期試験 100%で評価します。 最終成績: 1 回の定期考査の成績とします。 90 点以上「秀」、80 点以上～90 点未満「優」、70 点以上～80 点未満「良」、60 点以上～70 点未満「可」、60 点未満「不可」</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 次の授業でやる箇所を予め辞書等を用いて調べておくこと 授業で指定された、単語、熟語、表現、文法事項を覚えること</p> <p>■教員所在場所 本館 1 階学生部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 ○月に授業アンケートを実施します。 第 1 回目と最後の授業時に学修経験を問うアンケート調査も実施します。</p> <p>■メールアドレス ueda@ktc.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 月曜日と木曜日の 12 時 15 分～12 時 55 分</p>	

科目名: 応用物理演習4a			
英文名: Exercises in Applied Physics a			
担当者: 畑山 伸訓		開講年度: 2022年度(令和4年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 前期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「ガイダンス、単位系、次元」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第2週 「物理のための数学の準備(微分・積分)」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第3週 「物理のための数学の準備(ベクトル)」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第4週 「変位、速度と加速度の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第5週 「質点の力学(運動の法則)運動方程式(直線上)の基礎」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第6週 「質点の力学(運動の法則)運動方程式(平面、空間)の基礎」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第7週 「質点の力学(様々な力と運動方程式の問題1)」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第8週 「質点の力学(様々な力と運動方程式の問題2)」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第9週 「質点の力学(力積と運動量)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第10週 「質点の力学(運動量保存の法則)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第11週 「質点の力学(仕事、運動エネルギー)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第12週 「質点の力学(位置エネルギーと保存力)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第13週 「質点の力学(力学的エネルギー保存の法則)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第14週 「質点系の力学(重心座標・2体問題)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第15週 「質点系の力学(全運動量と運動量保存則)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>定期試験 (試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、近代科学に対応する基礎学力と発展的学力の向上のため、現在の工学の基礎を少し掘り下げて、微積分と微分方程式を積極的に用いて重点的に学習します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 受講者は、この授業を履修することによって</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(A-G1)(D-G1)主に質点の力学に関する物理法則の意味を理解し、運動方程式等を作ることが出来る。</li> <li>(A-G1)(D-G1)微分積分、微分方程式の用法を理解し、運動方程式やエネルギーの問題を解くことができる。</li> <li>(A-G1)(D-G1)微分積分、微分方程式の用法を理解し、運動量の保存則の問題を解くことができる。</li> <li>(A-G1)(D-G1)主に質点の運動に対する問題集の章末練習問題程度の問題を解きます。 ことができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーA、Dの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験返却時に、模範解答を開示し、学生の試験開示を個々に行う。 課題については、授業中の課題は授業時間内に解答する。 GoogleClassroomによる課題については、GoogleClassroomにて行う。</p> <p>■教科書 「高専の応用物理 第2版」小暮陽三監修 森北出版</p> <p>■問題集 「基礎物理学演習I, II」サイエンス社</p> <p>■関連科目 物理 2a・2b・3a・3b, 応用物理 a,b</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(回), 方式: 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 ならびに 課題 定期考査成績: 定期試験 80% 課題 20%で評価します。 最終成績: 90点以上「秀」GP「4」、80点以上～90点未満「優」GP「3」、70点以上～80点未満「良」GP「2」、60点以上～70点未満「可」GP「1」、60点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 各講義で指示された課題に取り組むこと 10月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 本館2階教務部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 10月にWebにてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス GoogleClassroom内に記載</p> <p>■オフィスアワー GoogleClassroom内にて対応</p>	

科目名: 応用物理演習4b			
英文名: Exercises in Applied Physics b			
担当者: 畑山 伸訓		開講年度: 2022年度(令和4年度)	
実務経験の内容: 該当なし		アクティブ・ラーニングの形態: 該当なし	
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング: 該当なし	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 後期	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 0.5	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授業概要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>第1週 「答案返却・解答 質点系の力学(力のモーメント、角運動量)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第2週 「質点系の力学(回転の運動方程式、角運動量保存則)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第3週 「剛体の力学(慣性モーメント1)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第4週 「剛体の力学(慣性モーメント2)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第5週 「剛体の力学(固定軸周りの回転の運動方程式)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第6週 「剛体の力学(回転の運動エネルギー)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第7週 「剛体の力学(固定軸を持つ剛体の運動1)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第8週 「剛体の力学(固定軸を持つ剛体の運動2)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第9週 「振動(調和振動1)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第10週 「答案返却・解答 振動(調和振動2)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第11週 「振動(振動のエネルギー)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第12週 「振動(減衰振動1)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第13週 「振動(減衰振動2)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第14週 「振動(強制振動と共振)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>第15週 「振動(LCおよびLCR回路)の問題」 [予習内容]: 単元の教科書を読む(30分) [復習内容]: 問題演習(30分)</p> <p>定期試験 (試験時間 50分)</p>		<p>■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象に、近代科学に対応する基礎学力と発展的学力の向上のため、現在の工学の基礎を少し掘り下げて、微積分と微分方程式を積極的に用いて重点的に学習します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 受講者は、この授業を履修することによって</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(A-G1)(D-G1)主に剛体・振動の力学に関する物理法則の意味を理解し、運動方程式等を作ることが出来る。</li> <li>(A-G1)(D-G1)微分積分、微分方程式の用法を理解し、剛体の運動方程式や慣性モーメントの問題を解くことができる。</li> <li>(A-G1)(D-G1)微分積分、微分方程式の用法を理解し、振動の問題を解くことができる。</li> <li>(A-G1)(D-G1)主に剛体・振動の運動に対する問題集の章末練習問題程度の問題を解きます。 ことができるようになります。</li> </ol> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーA、Dの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法 試験返却時に、模範解答を開示し、学生の試験開示を個々に行う。 課題については、授業中の課題は授業時間内に解答する。 GoogleClassroomによる課題については、GoogleClassroomにて行う。</p> <p>■教科書 「高専の応用物理 第2版」 小暮陽三監修 森北出版</p> <p>■問題集 「基礎物理学演習 I, II」 サイエンス社</p> <p>■関連科目 物理 2a・2b・3a・3b, 応用物理 a,b</p> <p>■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(回), 方式: 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 ならびに 課題 定期考査成績: 定期試験 80% 課題 20%で評価します。 最終成績: 90点以上「秀」GP「4」、80点以上～90点未満「優」GP「3」、70点以上～80点未満「良」GP「2」、60点以上～70点未満「可」GP「1」、60点未満「不可」GP「0」とします。ただし、再試験に合格し60点以上であると認められる場合は、合格(素点)「可」GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修: 準備学習(予習・復習等) 各講義で指示された課題に取り組むこと 2月に「学修時間に関する調査」を実施します。</p> <p>■教員所在場所 本館2階教務部</p> <p>■授業評価アンケート実施方法 2月にWebにてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス GoogleClassroom内に記載</p> <p>■オフィスアワー GoogleClassroom内にて対応</p>	

科目名: <b>創造工学演習</b>			
英文名: Creative Engineering Seminar			
担当者: 森田 日出男		開講年度: 2022 年度(令和4年度)	
実務経験内容:自動車製造販売会社に勤務。エンジン、車両電子システム部品開発及び品質保証を担当。		ICT 活用アクティブ・ラーニング: パワーポイント	
		アクティブ・ラーニングの形態: 課題ばらし(JMAC)	
工学科: 総合システム	学年: 4	開講期: 通年	コース: 全
科目種別: 選択	単位数: 1	授業形態: 講義	単位の種別: 履修
授業計画の内容及び授業時間外学修の内容(時間)		授 業 概 要	
<p>「授業タイトル」</p> <p>(前期)</p> <p>第 1週 創造工学ガイダンス ・創造工学とは ・選択科目のメリット</p> <p>第 2週 創造工学の基礎として身に着きたい事 ・コミュニケーション力 ・解析力</p> <p>第 3週 情報発信力に付いて ・ロボコン・デザコン・プロコン・GCON・廃炉ロボコン</p> <p>第 4週 創造の為のサイクルと実践 ・V モデルと品質保証体制 ・ロボコンでの実践</p> <p>第 5週 今までの纏めを記述し述べる(第 1 回自己分析) ・記述力とディベート: 昨年度の学習ドキュメントの学習</p> <p>第 6週 V モデルに付いて ・電子システム、部品の開発手法 ・協同の有り方</p> <p>第 7週 電子システム・部品の基盤部品に付いて ・半導体開発製造の現状</p> <p>第 8週 半導体の開発製造関連技術 ・開発 ・前工程 ・後工程 ・テストング ・製造設備</p> <p>第 9週 半導体を使いこなす技術 ・信頼性 ・ハード ・ソフト</p> <p>第 10週 今までの纏めを記述し述べる(第 2 回自己分析) ・V モデルを知りえた事</p> <p>第 11週 階層分析を理解する ・階層分析とは</p> <p>第 12週 FTA、要因分析図(魚の骨) ・各々の違いと使われ方</p> <p>第 13週 DR に付いて ・企業での実践</p> <p>第 14週 FTA の事例</p> <p>第 15週 今までの纏めを記述し述べる(第 3 回自己分析) 階層分析と FTA の関連に付いて</p> <p>(後期)</p> <p>第16週 マスタープランとは、講義</p> <p>第17週 課題ばらしによるマスタープラン項目選定</p> <p>第18週 マスタープランとアクションプランの講義</p> <p>第19週 アクションプラン、フォーマット作成</p> <p>第20週 アクションプラン、内容記入</p> <p>第21週 品質保証体制の講義</p> <p>第22週 アクションプランの品質保証見直し</p> <p>第23週 課題解決への創造性発揮の講義、技術編</p> <p>第24週 課題解決への創造性発揮の講義、協同編</p> <p>第25週 課題解決への見える化の講義</p> <p>第26週 アクションプランの出来上がり品質各自評価</p> <p>第27週 アクションプランの出来上がり品質相互評価</p> <p>第28週 技術手法 DR の具体的事例講義</p> <p>第29週 アクションプラン各自 DR 実施</p> <p>第30週 学習まとめの講義 卒業研究への活用 就職活動への活用 進学活動への活用</p>		<p>■授業概要・方法等</p> <p>前期:創造工学の基盤となる ・感性 ・コミュニケーション能力・専門知見学習の重要性を社会や産業界事例より理解させ、自主性向上の手助けを実施します。</p> <p>後期:前期習得内容より、各自の進路活動において有効な・V プロセス ・課題ばらし ・アクションプラン</p> <p>の理解を深め自主的改善や進歩が出来る手助けを実施します。</p> <p>■使用言語 日本語</p> <p>■学習・教育目標および到達目標</p> <p>受講者はこの授業を履修することによって</p> <p>1. (B-G1)階層分析の理解に寄る、協調性と協調の必要性を身に付ける。</p> <p>2. (B-G1)階層理解に寄る、知識知見の多様性を知り得意分野の成長を進める。</p> <p>3. (B-G1)知識知見の多様性より、グローバルなコミュニケーション力の必要性を知り、外国語関心やITへの関心を高める。</p> <p>4. 演習内容より、自己の得意不得意の現状を知り、自己啓発の方向を理解し自主進化する事が出来る様になります。</p> <p>この科目の履修は、本校総合システム工学科の定めるディプロマポリシーBの達成に関与しています。</p> <p>■試験・課題に対するフィードバック方法</p> <p>・前期 創造性への気づきを高める為、社会や業界の情報講義内容を、課題ばらし手法で理解させ実践知識を高める。</p> <p>・後期 各自の学習や学生ライフ計画を見直し、今後の自己進化の</p> <p>■教科書:2019 年度学生共同作成「創造性工学演習講座」初版</p> <p>■参考文献</p> <p>・匠のモノづくりとインダストリー4. 0、柴田 英寿 著 大河出版 ¥2000</p> <p>・進化型 QDD による技術情報の使える化、岡 建樹 奈良岡 悟 著 日科技連 ¥2700</p> <p>■関連科目</p> <p>計測工学、制御工学、メカトロニクス、信頼性工学 品質工学</p> <p>■成績評価方法および基準</p> <p>前期:後期演習の為の現状分析と収集結果における階層分析度、コミュニケーション力、感性性を夫々20%、それに学習意欲を40%とする。</p> <p>後期:計画書立案力、進捗管理力、進捗対応力をそれぞれ20%し、取り組み姿勢を40%とする。</p> <p>学年末成績:上記評価と同じとします。</p> <p>90 点以上「秀」GP「4」、80 点以上～90 点未満「優」GP「3」、70 点以上～80 点未満「良」GP「2」、60 点以上～70 点未満「可」GP「1」、60 点未満「不可」GP「0」と評定します。ただし、再試験に合格し60 点以上であると認められる場合は、合格(素点)GP「0」とします。</p> <p>■授業時間外に必要な学修:準備学習(予習・復習等)</p> <p>左記の予習復習内容についてまとめ提出すること。</p> <p>2 月に学修時間に関する調査を実施します。</p> <p>■教員所在場所</p> <p>4号館1F工作実習室教員室</p> <p>■授業評価アンケート実施方法</p> <p>2 月に Web にてアンケートを実施します。</p> <p>■メールアドレス</p> <p><a href="mailto:moritantan@nifty.com">moritantan@nifty.com</a> <a href="mailto:h-morita@ktc.ac.jp">h-morita@ktc.ac.jp</a></p> <p>■オフィスアワー</p> <p>水曜日 14:30～17:00</p>	
[予習内容]:次週に向けての課題を出題します。(30 分)			
[復習内容]:当日中に授業内容を復習し理解を確実にする事(60 分)			